

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 24 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520378

研究課題名（和文）白居易を中心とする中唐「風流」文学の展開に関する研究

研究課題名（英文）A study of the evolution of mid Tang's *Fengliu* literature in China and Japan

研究代表者

諸田 龍美（MOROTA TATSUMI）

愛媛大学 ・ 法文学部 ・ 准教授

研究者番号：20304701

研究成果の概要（和文）：

「長恨歌」と「中唐の美意識」を基軸として、恋情文学という視点から、白居易の文学的特徴とその本質を明らかにした。白居易の詩人としての個性や本質が「多情な官能の詩人」という点に求めうること、また、盛唐から中唐に到る間に生じた女性の文学的役割の増大が、白居易の恋情文学を開花させる重要な要因であったこと等を解明した。

研究成果の概要（英文）：

*Chogonka* and aesthetics in the Tang revealed that Bai Ju-yi's literary features and its essence from the viewpoint of love letters as well as. That essence and personality as the poet Bai Ju-yi can be obtained in terms of "lurching erotic poet" clarified was a critical factor increased female caused while arriving in Tang dynasty from Shi siming literary role make bloom Bai Ju-yi's love letters.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 ・ 各国文学・文学論

キーワード：白居易・風流・多情・好色・長恨歌・比較文学

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 人間にとって恋情とは、生の真実に関わる本質的問題であり、中唐の伝奇小説や、日本の物語文学が、ともに、この恋情や恋愛を主要なテーマとしている究極的な理由もこの点にこそ求め得る。
- (2) しかし、恋情を、人間の生の真実、あるいは宿命として深く自覚するためには、そうした認識を支え可能にするだけの文化の成熟が必要であった。九世紀の中国では、長安を中心とする都市文化の爛熟を背景として、科挙制度によって新たに台頭した士大夫階級が妓女を中心とする女性たちとの交流を深め、恋情をめぐる人間的生の真実を、伝奇小説という新しい虚構の形式を用いて表現し、そこからはまた〈風流・好色・多情〉を是とする新しい価値観や美意識も生まれたのであった。
- (3) こうした中唐の新しい美意識が、平安朝の美意識〈みやび・色好み・もののあはれ〉の形成にも、深い位相において影響を与えている。
- (4) 例えば、『万葉集』における大伴田主と石川郎女の逸話は、風流論争として著名であるが、そこには『遊仙窟』や「登徒子好色賦」など中国文学からの影響が顕著であり、その風流が、やがて、いわゆる王朝の〈みやび〉へと展開していったと推定される。
- (5) すなわち、恋愛をめぐる唐代文学や奈良・平安朝の物語文学は、東アジアの〈風流文化圏の文学〉の一環として、大きな視点から、一連の〈文化ダイナミズム〉のもとに、捉えることが可能なのである。

## 2. 研究の目的

本研究は、「長恨歌」「李夫人」「長恨歌伝」「鶯鶯伝」等の中唐恋情文学を主要な対象として取り上げ、その内実を明らかにするとともに、そうした中唐恋情文学が、後世の中国文学及び日本文学に、いかなる影響を及ぼしてきたのかについて、総合的・多角的に解明することを目的とする。具体的な目的は、以下の通りである。

- (1) 中唐恋情文学の中心的役割をになった白居易や元稹の文学作品、就中、「長恨歌」や「鶯鶯伝」が、宋词や元曲など、恋愛を主題とするその後の中国古典文学に多大な影響を与えたことを明らかにする。
- (2) 中唐の「風流の美意識」は、奈良から平安にかけての国文学史の展開にも多様な影響を及ぼしたが、中でも、『伊勢物語』から『源氏物語』に至る、所謂「色好み文学」の形成と主題の深化に本質的な影響を与えていたことを論証する。
- (3) さらに、馬致遠の元曲『江州司馬青衫泪雜劇』の、初の本格的な訳注稿を完成させることも、本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

- (1) 中唐「風流」文学の代表的作品である白居易の「長恨歌」が、明清に至る、その後の中国恋愛文学に、どのような影響を与え、いかに受容されたのかについて、「多情」「好色」「風流」の美意識を視座としながら考察する。

(2)「長恨歌」や元稹の「鶯鶯伝」が、奈良から平安に至る仮名文学（『万葉集』・『伊勢物語』・『源氏物語』等）に与えた影響について考察をすすめる。

(3)馬致遠「江州司馬青衫泪雑劇」関連資料を収集するとともに、訳注稿（初稿）を作成する。

(4)風流の美意識に関連するキーワード（風流・多情・好色・此恨など）のデータベースを作成する。

(5)大学等の機関に赴き、関連資料を収集すると同時に、関連分野の研究者から、研究テーマに関するレクチャーを受ける。

#### 4. 研究成果

(1)「女性性・恋愛性の増大」を特徴とする中唐の文化は、女流文学を育んだ平安中期の文化状況と類似しており、『源氏物語』の本質とされる「もののあはれを知る」美意識も「一国に閉じられた概念」ではなく「普遍的人間性」へと開かれた概念として捉えるべきことを明らかにした。

(2)「長恨歌」は、単に玄宗・楊貴妃という〈一对の男女の恋愛悲劇〉を題材とする物語詩ではなく、その背景には、〈愛と死の宿命を免れ得ない、人間の普遍性に対する認識〉が当初から存在したことを、種々の作品外資料の分析を通して明らかにした。

(3)中唐においては都市文化の爛熟を背景に、新たに台頭した士大夫階級が妓女たちと精神的にも交流を深め、〈風流・好色・多情〉

を是認する新しい美意識が生まれたが、それは平安朝の〈みやび・色好み・あはれを知る〉美意識の形成にも深い影響を与えたことを明らかにした。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① 諸田龍美、中唐恋情文学と平安朝の美意識—〈文化ダイナミズム〉の視座から、『愛媛大学法文学部論集』人文学科編、査読無、第31号、69頁～92頁、2011。
- ② 諸田龍美、伝奇と物語の美意識—〈文化ダイナミズム〉から見た中唐と平安朝の文学、『和漢比較文学』、査読有、第44号、37頁-48頁、2010。
- ③ 諸田龍美、「長恨歌」の普遍性について、『白居易研究年報』、査読有、第11号、41頁-61頁、2009。
- ④ 諸田龍美、恋と女の日中文学—「一国文学史観」を越えて、『東アジア文化環流』、査読無、第3集、90頁-101、2009。

〔学会発表〕（計4件）

- ① 諸田龍美、文学研究における個別と普遍—なぜ、白居易の「長恨歌」は傑作なのか？、新潟大学人文学部・愛媛大学法文学部人文学科『人文学の現在』学術講演会、2011年9月24日、愛媛大学。
- ② 諸田龍美、《長恨歌》与中唐的美意識——好色与風流、中国唐代文学学会第十五届年会暨唐代文学国際学術研討会、2010年10月17日、南開大学（中国・天津市）。
- ③ 諸田龍美、「長恨歌」の普遍性—元稹悼亡詩と「李夫人」を手がかりとして、第56

回中国・四国地区中国学会、2010年6月5日、山口大学。

- ④ 諸田龍美、伝奇と物語の美意識—〈文化ダイナミズム〉から見た中唐と平安朝の文学、和漢比較文学会第28回大会、2009年9月26日、國學院大学。

〔図書〕（計1件）

- ① 諸田龍美、白居易恋情文学論—長恨歌と中唐の美意識、勉誠出版、1頁-380頁、2011。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

諸田 龍美 (MOROTA TATSUMI)

愛媛大学・法文学部・准教授

研究者番号：2030470